

海外事務所だより

北京事務所

日本の自治体の人財と技術で 中国の地域課題解決に挑む

(一財)自治体国際化協会北京事務所所長補佐 濱岡 良介(香川県派遣)

クレアでは、海外の地方政府から要望のあった国際協力案件に対して、日本の地方自治体が有する人材を派遣し、技術指導や人材育成などを行う「自治体国際協力専門家派遣事業」を1998年度から実施しており、北京事務所ではこれまでに延べ94人の専門家を中国の各地方政府に派遣しています。長年地方行政の現場で活躍してきた専門家の指導は派遣先機関からこれまで高い評価を受けており、指導にあたる専門家にとっても海外で現地の技術者らと意見交換や交流を行う貴重な経験の機会となっています。また派遣をきっかけとして日中自治体間の友好関係強化を促すという重要な側面も担っています。

今回は2014年度に実施した下表4件の派遣について、ご紹介します。

	派遣先	期間	協力分野・指導テーマ	専門家
1	河南省開封市	6月25日 ～28日	農業：順河回族自治区における水稲育苗技術の指導	埼玉県職員 畠山 修一 氏
2	遼寧省 農業科学院	9月15日 ～19日	農業：トルコギキョウ生産に関する技術指導	群馬県職員 福島 尚嗣 氏
3	山東省徳州市 斉河県企画局	9月21日 ～27日	都市計画：中心市街地整備計画に対する指導	元名古屋市職員 経塚 茂 氏
4	山東省淄博市 野菜弁公室	12月1日 ～5日	農業：害のない病虫害対策	元福島県職員 沼田 光夫 氏

日本の稲作技術に強い関心 ～河南省～

河南省開封市の北東部に位置する馬尾村では、高齢化や若者の出稼ぎにより、農業を担う人手が少なくなってきたり、4～5年前より水稲栽培の効率化や省力化を目指して田植機の導入が進められてきました。今回、水稲栽培の機械化に伴う水稲の育苗

技術や病虫害の防除技術を学びたいとの要請を受け、埼玉県職員の畠山専門家に指導にあたっていました。



馬尾村で作付け状況の聞き取りを行う畠山専門家

砂地でアルカリ性の土壌という水稲栽培

に不適な現地で行われている育苗の実態や問題点、田植え後の管理について聞き取りをし、改善すべき事項について助言を行いました。講義では、日本の稲作と対比させながら、栽植密度の見直しや生育段階に合わせた水管理などを提案しました。聴講者からは、稲の生理生態を細かく分析し技術を組み立ててきた日本の稲作に対し強い関心が寄せられました。

専門家からは、稲の主な害虫であるヒメトビウンカが、中国から日本へ飛来してきていることや、稲の栽培起源が中国の珠江中流域だと言われていることから、日中共同で遺伝資源を守り、病虫害対策に挑むことで、両国の食糧生産のさらなる発展につながるのではないかと意見をいただきました。

高品質なトルコギキョウの育て方 ～遼寧省～

遼寧省は中国国内で3番目に花き栽培の盛んな地域であり、2010年より、中国ではお祝いの場で需要の高いトルコギキョウの栽培試験が研究所で始められました。しかし、高品質のものが栽培できず、病害が多発してしまっているという課題を抱えてい

たことから、今回群馬県職員の福島専門家に指導にあたっていただきました。

ハウスを視察して100種以上にわたる品種の栽培状況を確認したのち、病害虫の見分け方や対策方法、出荷方法・鮮度保持といった品質管



研究所のハウスを視察し意見交換

理について指導を行いました。また、研究員約20人を対象にした栽培講習会では、トルコギキョウの自生地の気象と遼寧省の気象を比較しながら、固化培地の利用方法や種子冷蔵、定植後の管理方法など適切な育苗方法について講義を行いました。

福島専門家からは、今後の課題として、中国では一般的な個人農家に対して政府の補助金がなく国内で流通している雲南省産のトルコギキョウが安価であるため、一般農家が海外の種苗や資材などを導入することがコスト面で困難であり、日本の技術を中国の施設や資材にあった形で上手く組み替えて導入することが必要との意見をいただきました。

3大都市化プロジェクトによるまちづくり～山東省～

山東省徳州市斉河県では、①大規模未利用地にリジャー施設、ハイテク産業、湿地公園の3ゾーンからなる「黄河国際エコタウン」の建設、②幹線道路網の整備、③高速鉄道の新駅建設という3大都市化プロジェクトが進められており、このプロジェクト成功のために県が抱えている課題解決の助言と今後想定される問題について、元名古屋市職員の経塚専門家に指導を行っていただきました。

「黄河国際エコタウン」に対して、鉄軌道による大量輸送手段導入の必要性や駐車場の早急な整備について提案したほか、現在進められて



黄河国際エコタウンを現地調査

いる道路網整備計画についての見直しやモノレールなどの新交通システムの導入の提案を行いました。さらに旧市街地の再開発が3大プロジェクトと同程

度に重要と指摘したところ、斉河県より強い関心が示され、日本などで実施されている旧市街地の再生を盛り込んだ再開発計画が進められることとなりました。

助言や指導を聞き入れ、従来の中国の都市計画手法にこだわらず貪欲に先進国である日本の都市計画の手法を取り入れる姿勢に、斉河県のまちづくりの明るい未来が感じ取られました。

モデル農場で安全な野菜づくりを指導～山東省②～

山東省淄博市にて、市の指定モデル農場の技術者らに対して、元福島県職員の沼田専門家に技術指導や助言を行っていただきました。市の技術者とともに計10か所のモデル農場のハウスを訪問し、ハウス栽培における管理法や病虫害対策について現地指導を行いました。また、市の農業科学院で開催された

講義では、市の技術者やモデル農場の担当者ら40人に対し、安全作物の生産や野菜の病虫害対策について講演しました。



モデル農場の担当者と意見交換

中国を代表する栽培用ハウスである無暖房の「日光温室」はハウスに設けられた土やレンガ作りの壁に日中の温度を蓄積することで厳寒期でも夜間のハウス温度を10度以上に保つ高い保温性能を誇りますが、湿度対策が不十分であったため病害が発生しやすくなっていました。

山東省は中国の野菜生産の約4分の1を占める大産地ということで、その規模の大きさと集団的な生産の力強さを、専門家は強く感じていました。また有機栽培や溶液栽培、植物工場など採算性確保が難しい分野にも積極的に取り組んでいくエネルギーも感じられました。

いずれの案件も現地の政府職員や住民から非常に温かい歓迎を受け、技術協力を通じて両国の友好を深め合いました。北京事務所では、2015年度も専門家派遣事業を実施しますので、引き続き日中地域間の国際協力活動の推進にご協力をお願いいたします。